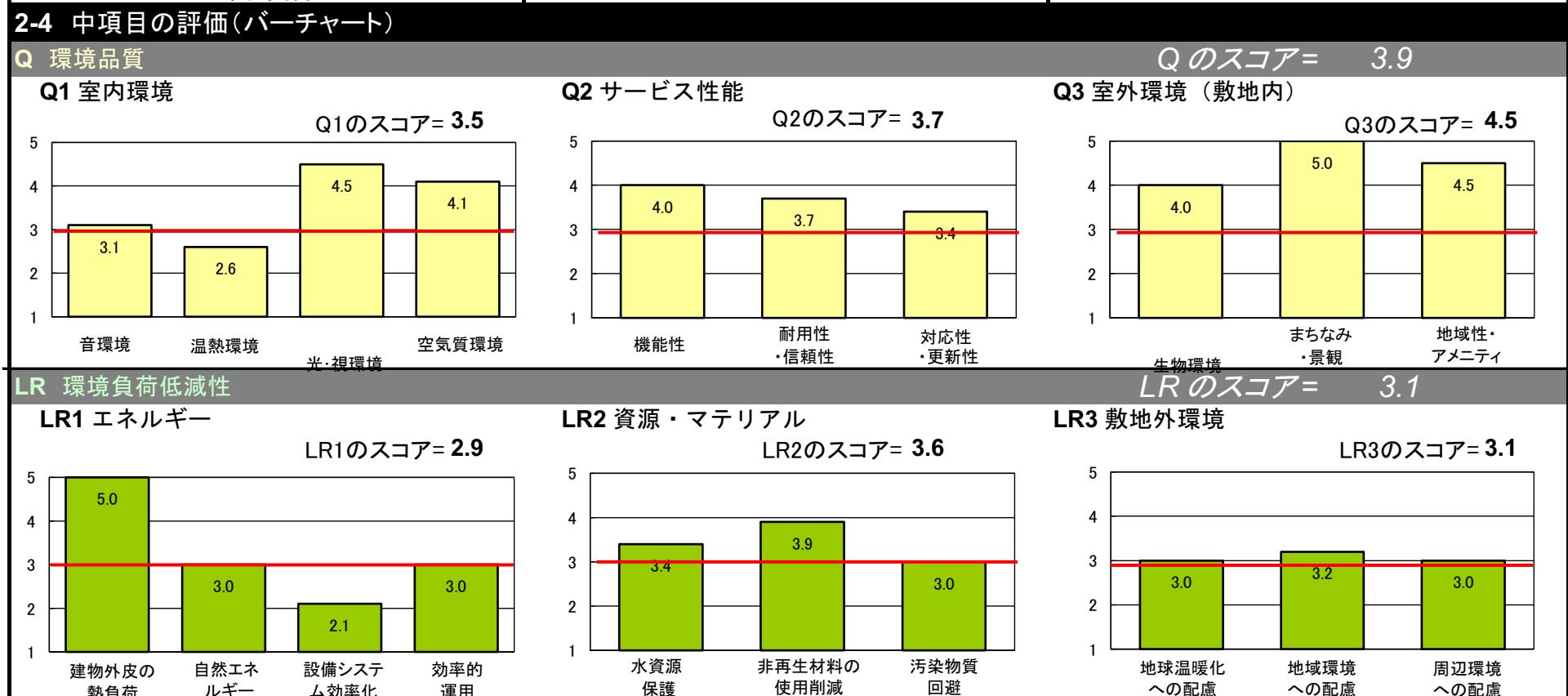
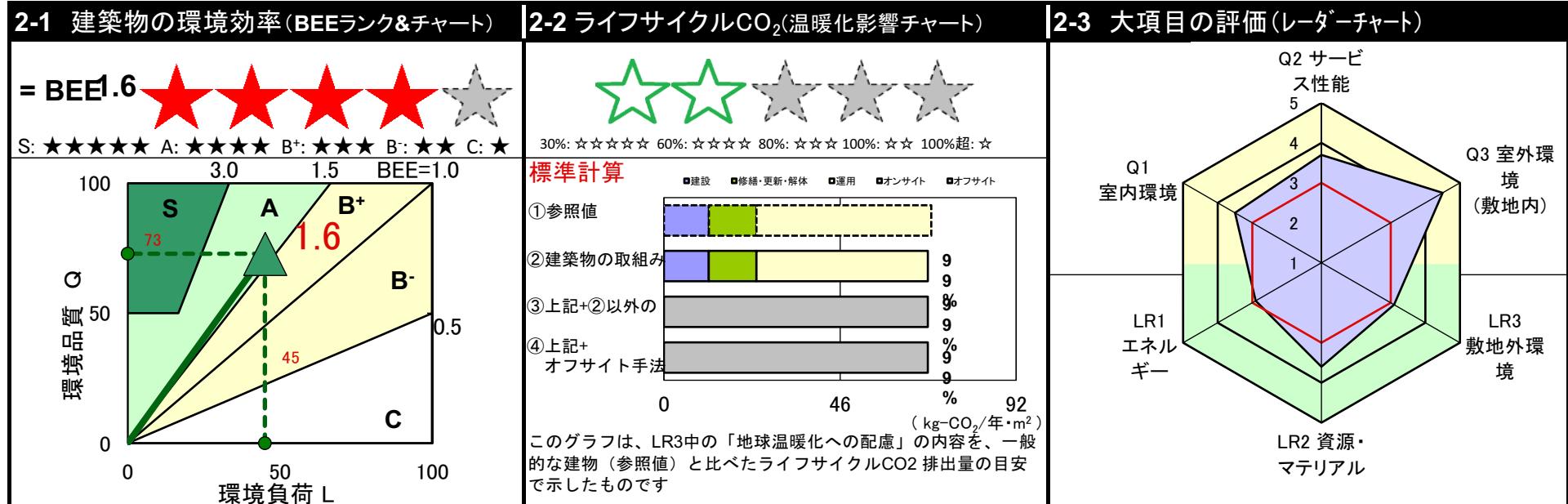


# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新規)2016版、名古屋市建築物理情報制度運用マニュアル2016  
■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋造形大学	階数	地上4F地下1F
建設地	名古屋市北区名城二丁目4番1他23筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、第2種住居、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年4月14日
敷地面積	20,136 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	10,464 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	20,917 m <sup>2</sup>	確認者	



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
市民に開かれた大学とするため、自由に通り抜けられる通路を敷地内に設け、その通路に対して大学の活動が表出されるよう、図書館やアリーナ、多目的ホールなどの各機能や、「見世」と呼ばれる多目的の小さなスペースを配置した。		建物の高さを低く抑え、また外壁を多孔質な物とすることで、周辺への圧迫感を緩和している。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
天井の高い4階スタジオでは、通常の空気調和機に加えて床輻射式の冷暖房を設けることで、居住域の快適性に配慮している。	高い天井高と、白を基調としたシンプルな内装として、見通しよく明るい室内空間といえる。	卓越風に配慮した配置計画と、できるだけ緑化することで、外部空間の温熱環境の向上を目指している。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
1階から3階の各室については、全面窓口のサッシ外側に格子壁を設けることで、自然採光を多く利用しながらも、直射光を軽減している。4階のスタジオについては奥行きの深い平面となるため、外周だけでなく中央の中庭にも窓口部を設けることで、採光と通風を確保している。	躯体以外の部分で積極的にリサイクル材料を活用し、また、躯体と仕上げを容易に分解できる構造としている。解体時においても廃材をより再利用しやすい設計としている。	敷地周辺への風を遮らない様、低層部分は分棟配置とし、風が抜ける構成としている。また、地表面の多くの部分に植栽を施すことで地盤面の温度上昇を抑えたり、設備機器を屋上に持すること、排気が周辺に影響を及ぼさない様配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

名古屋造形大学

■使用評価マニュアル：

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト：

CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>			<b>3.0</b>
LR1 エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>			<b>3.8</b>
Q3.1 生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上			
Q3.2 まちなみ・景観への配慮	無	0.009	
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>			<b>3.8</b>
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.7	0.01875	

## 結果

### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.0



### 2. 自然共生

評価点 = 3.8



### 3. 循環型社会

評価点 = 3.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここで評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。